

令和3年度 第2回 摂津市立男女共同参画センター運営委員会 要点録

日 時：令和4年2月7日（月）15時00分～17時00分

場 所：摂津市立男女共同参画センター 交流室

出席者：摂津市立男女共同参画センター運営委員

事務局：由井課長、末永センター長、吉本活動専門員、岩谷相談員、澤田相談員、船寺

案件：（1）令和3年度事業実施中間報告

（2）令和4年度事業計画（案）

（3）その他

配布資料：資料確認）

1. 資料1-1 令和3年度 事業中間報告（センター主催事業）
2. 資料1-2 令和3年度 事業中間報告（活動・交流支援事業）
3. 資料2 令和4年度 摂津市立男女共同参画センター事業計画（案）
4. 資料3 ウィズせつつ女性のための相談室/令和3年度月別相談件数一覧表
5. 資料4 総合相談件数の年間の推移
6. セミナーガイド2月号
7. ウィズせつつフェスタWeek 2022 チラシ
8. 女性問題シリーズVOL.33「恋愛」にひそむDV

【開会】

【定足数の確認】 委員6名中4名出席で成立

【議事】

委員長 （1）令和3年度事業実施中間報告を議題とする。事務局からの説明を求める。

事務局 （説明）

① センターHPの申込フォームのQRコードを活用した、講座のオンライン申込を10月受付分から開始した。30～50歳代の申込が増えた。男性の申込も。早朝や夜間などセンターが閉館中の時間帯の受信が目立つ。まだまだ利用は少ないが、新規の参加者を呼び込むきっかけになっている。

一方で、他市在住の方からの申込が多いが市民優先なのでキャンセル待ちになってしまう。何度も送信してしまい重複した申込になることもある。といった課題も見えてきた。

② コロナ禍で、定員を通常の数で設定し実施。感染拡大が減少している時期であっても定員数は増やさず、休館にならない限りは講座を実施してきた。

中止となったものは2企画。延期して実施したものは1企画のみでほぼほぼ予定どおり実施できた。

子育てや健康をテーマにした講座に参加希望が多く、キャンセル待ちが目立つ。

③ 今年、親子での参加を可としたものや、働く人でも参加しやすいよう、平日の夜間に実施していたものをコロナ対策のため土・日に設定することが増えた。

④ 摂津市が企業との連携事業として、市民の健康維持・増進、安全・安心の確保等に取り組み、市民サービスの向上と健康的な生活を実現することを目的として、大塚製薬と連携協定を結んだ。

それを活用して、当センターでは、男女共同参画の視点から、女性や子どもの健康に関するセミナ

一を共同実施した。

また、健康関連のお話をコミックにした、17項目にわたる、まんがヘルシー文庫をセンターの情報室へ寄贈をうけた。夏休みや冬休みに小学生への貸出が目立った。情報室でも閲覧する子どもたちの姿が見受けられた。

⑤生理の貧困への対応として、コロナの影響等により経済的に困窮し、生理用品を入手しづらい女性に対し、当センター女性のための相談室において、7月1日から希望者に生理用品（ナプキン44枚入り）を配付した。そのほか中学高校をはじめ市内の教育機関に一定数を配付した。

センター事務所内でも案内を掲示し、啓発するも現在まで、希望者は10名に満たない。

12月に、教育委員会を通じて市内中学校に追加配付した。生徒が利用しやすいよう保健室やトイレに工夫して配架いただいている。

⑥講座等の開催状況では

・女性人材育成部門では、ウィズせつつカレッジ2021を実施した。

7/15から10/29の卒業式までの9回実施。17名受講。卒業は11名。前半は、ジェンダーについて学び、誰もが生きやすい社会の実現に向けた生き方を考える。後半は、絵本や川柳を通じて自己肯定感を育み、自身も他者も尊重しあえる関係性を学んだ。女性人材登録には、2名にお誘いし、1名の登録があった。

・男女共同参画部門では、終活サロンとして10月10日に「ボケますからよろしくお願いします」のドキュメンタリー映画を撮影した、信友直子監督をお招きし、映画上映会と講演会を実施した。60名の定員を超えての応募があったが、直前のキャンセルがあり定員で収まる結果となった。

・男性問題部門では3月にオトコの安心セミナーとして、家事の経験の少ない男性が介護を担う際の課題や、介護サービスの資源や制度の利用の仕方、介護者自身のケアについて、施設職員や介護者家族の会のメンバーを講師に迎えて実施する予定である。

男性が参加しやすいように”オトコ“のと付け男性優先とするが、限定するのではなく、パートナーと一緒に聞いてもらいたい。これは、昨年度実施した市民意識調査の質問の中で、「介護してもらおうなら誰にしてもらいたいか？」との問いに対し、男性は配偶者、女性は介護施設職員との回答が一番多く、男女差が明確に出ていたこともあり、実態がどうなっているのか興味を持ったところである。

同じく3月に予定している、スパイス料理レシピについては、料理教室として開催する予定だったが、コロナの感染状況により、レシピ紹介をはじめ、さまざまなスパイスの調合のしかたや各スパイスの効能などを中心にお話いただく予定である。

・こころとからだの部門では、今年度から、ウィズほっとサロンをはじめとする健康に関する講座は、保健福祉課が実施している健幸マイレージポイント対象事業として実施した。

健幸マイレージとは、市民が「歩くこと」を中心とした健康づくりに、楽しみながら継続して取り組めることを目的とした事業で、活動量をポイント化し、ためたポイント数により賞品が提供される市民の健康意識を高める取組で、8月から2月末までの11講座を対象。

コロナ禍のストレスから心身の不調を感じる人が多いのではといった考えから実施したボディアワーク中心の講座は人気が高かった。実際参加した人は、60代から70代が多かったが、キャンセル待ちの中には、30代から50代の方も多く見受けられた。

これは、日頃講座に参加している高齢者が次月の受付が始まると同時に窓口で直接申し込ま

れ、広報やホームページで知った人が申し込む頃には定員に達してしまっているといった状況も見受けられた。本来ほっとサロンは、会社帰りの女性にも立ち寄っていただけるよう夜間開催を基本としていたが、コロナ感染拡大防止のため夜間閉館になり講座を中止することがあったことから、今年度は土日の昼間に実施したことにより参加希望者が増えた一因と考える。

新たな取り組みとして、大塚製薬との連携講座として、12月に「親子でおいしいお絵かき！食育アプリSketchCook」を実施し、10組23人が参加した。

2月6日には二つ目のタイアップ、女性のための健やかセミナーを実施した。センターの講座としては、対象年齢を細かく絞ることは好ましくないかもしれないが、体調の変化が著しく現れる更年期時期の心と体の保ち方を伝えたいとの企業側の要望もあり、40歳から60歳代とした。普段、女性のカラダに関するセミナーは高齢者から埋まっていくことが多いが、あえて対象を絞ったことで、まさにその時期に差し掛かっている女性に聞いてもらうことができた。

- ・子育て支援部門では、幼児後期、学童期の保護者に向けた子育てスキルの内容を取り入れた「親が学ぶアンガーマネジメント」は、目標どおり20代から40代の若い世代が参加者の75%を占めた。中には、両親そろっての受講もあった。キャンセル待ちがでるほどの人気だった。
- ・女性に対する暴力防止の部門では、若年層へのデートDVについて、出前講座で中学生に伝えている内容をオトナが考える機会の提供を試みた。

8月7日に実施した、「デートDVを防止するために知っておきたいこと」には7名の参加あり。小学6年生の子の保護者は、中学生になるとこういった授業が受けられることに期待を寄せられていた。講座終了後、講師に相談をもちかける保護者も見受けられた。会場では、講座関連図書リストを配付し、図書の案内や新聞記事の掲示など情報提供を行った。

働く保護者が参加しやすいよう、土曜の午前に設定したが、参加者は少なく、対象者を中学生以上としたが、小学高学年と保護者のペアなどでの参加を呼びかけられるような設定の仕方もよかった。

- ・防災部門では、今年は、さまざまな立場からの防災対策を考えることを重点に、一人ひとりの自助防災、団体交流会での非難所運営体験、未就学児のいる保護者に向けた防災知識について学んだ。

全国女性会館協議会事務局が運営する、「災害時における男女共同参画センター等の相互支援ネットワーク」に加入した。

2011年に起こった東日本大震災の経験から、全国の男女共同参画センター同士が互いに支え合う仕組み作りが不可欠であるという認識のもと、2015年に全国女性会館協議会が構築された。この仕組みのひとつで、男女センター、男女共同参画所管課を結ぶ全国ネットワークとして相互支援ネットが立ち上げられた。大規模災害発生時だけでなく、平常時においても、情報交換などを通じて、つながりを促進と考えている。

具体的な取り組みとしては、①全国女性会館協議会事務局が被災地と被災地外を結んで、支援ニーズと支援リソースをマッチングします。②被災地の状況や女性のニーズ等について、リアルタイムで情報の発信、共有を行います。登録ユーザー限定で、オンラインならではの迅速な対応が可能です。③被災地の男女センターが男女共同参画の視点からの災害対応が行えるように、必要に応じて専門家の派遣や助言を行います。④平常時でも、男女共同参画の視点からの防災・災害対応に役立つ情報を共有するためのネットワークとして活用します。となっている。

- ・ウィズせつつフェスタWeek 2022

昨年同様、開催日を分散(2/27(日)~3/5(土)に分けて)実施。メインは3/5(土)

展示：2/27(日)～3/5(土)、団体企画体験：2/27(日) 3/3(木)3/4(金)

舞台発表：3/5(土) 団体の発表と「トンちゃん一座」バルーンイベント「無楽らいぶ」一座のギター演奏を中心に、団体発表とワークショップを実施

申込制または、当日人数制限を設ける。各イベントで名簿作成。検温、手指消毒は必須とする。

その他推進団体の活動に関しては、ジャンプ企画が昨年より2企画増の8企画を予定している。

・女性相談（1月末現在）については、

○総合相談については、

のべ466件 前年度比 約20%減

5月、6月多く、8月、9月、11月は大きく減少。1月は再び増加傾向。

減少した理由は毎日のように相談されていた人がいたが、今年は相談されなくなったため。

○面接相談については、

のべ98件 前年度比 約14%減

1か月15コマ中 平均6.5コマ

○法律相談については、

のべ64件 前年度比約5%増

1か月10コマ中 平均6.4コマ

・出前講座としては、

デートDV予防啓発講座を実施した。

6/18 第一中学校2年生 5クラス 176名（教員含む）

6/21 第三中学校2年生 4クラス 137名

11/26 第五中学校3年生 3クラス 85名

2/18 第五中学校2年生 2クラス 実施予定

・デートDV予防啓発ユースリーダー養成講座については、のちほど担当相談員より第2期生発表会の状況も含めて報告する。

委員長 質疑はないか。

委員 QRコードでの申し込みはどの程度か。

事務局 定員の一割程度はQRコードからの申し込みで、若い参加者が増加した。

委員 QRコードは市ホームページにも載せているのか。

事務局 センターのホームページには掲載しているが、市ホームページとリンクしていないので、今後、リンクさせるように検討するとともに、市の広報へも掲載できればと考えている。

委員 相談件数が減った理由は、特定の1人が相談しなくなったということだが、その方のフォローはできているのか。

事務局 その方は、人権女性政策課で対応している。医療機関ともつながっている。

委員 マーガレットサッチャー鉄の女の涙の上映会を中止したということだが、再度実施されるのか。

事務局 コロナ感染の拡大期であり、中止したが、来年度の事業として予定している。

委員 男性問題で介護に関するセミナーの予約状況はどうか。少ないようなら周知に協力するが。

事務局 定員に達していないので、協力をお願いしたい。

委員長 大塚製薬との提携での講座についての経過は。

事務局 市と大塚製薬が官民協働ということで、提携して全庁的に取り組んだもので、男女共同参画センターとしては、子ども向けの食育に関する講座と更年期の女性向けの健康に関する講座を実施し

た。

市としても産官学の連携を進めており、大阪成蹊大学や郵便局からの申し入れなどもあり、人権女性政策課としても研究、検討を行っている。

委員長 以上で質疑を終了する。

次にデートDV予防啓発ユースリーダー養成講座の詳細の説明を事務局からお願いする。

『デートDV予防啓発ユースリーダー養成講座』の説明・報告

委員長 (2) 令和4年度事業計画(案)を議題とする。事務局からの説明を求める。

事務局 (説明)

令和4年度は、基本的に事業体系は例年どおり継続して実施する予定だが、ウィズプラン改定により調整することも予定している。

主なものは、

- ・男性問題としては、講座への誘導やパートナーと一緒に参加できるしくみが必要で、子育て世代ならママと子の催し等を通じてママからパパを誘い込んでもらうなどの工夫が必要である。本年もパパを楽しむは定員6組中すべてが新規参加者だった。男性の育児・家事に関する講座を連続講座にして、一回だけでなくパパ同士の交流機会がもてるような設定にした。

- ・女性問題については、シングルマザーむけ交流会(仮称)を予定している。

同じような境遇で過ごす女性とのかかわりをもつことで自分への癒しの時間を過ごせる企画にしたい。少人数の定員を設定。ファシリテーターはセンター女性相談員を考えている。

他市では数年にわたり、実施されている。女性のための相談室利用者からの要請あるが、シングルマザーであることを知られたくない人もいる。需要があるか否かは難しいところだが、こういう状況にある女性にも寄り添えること、心配事があれば気兼ねせず「女性のための相談室」の扉をたたいてほしいという思いを伝えるため、モデル的に実施したい。

アドラー心理学は、目的論、認知論等をテーマに考えている。

- ・女性人材育成のウィズせつつカレッジ2022は、6/25(土)に入学記念講演として川口加奈氏をお招きし、公開講座として実施を予定している。
- ・チャレンジ支援については、これまで、創業にポイントをおいていたが、今年度は、女性の事業承継にスポットをあててみたい。商工会のビジネスサポートセンターの活用なども視野に入れながら実施したい。
- ・就労支援については、産休、育休からの復帰を目前とする親を対象に、仕事復帰へと子育ての両立のへ心構えなど、自分一人で抱え込まない家事の時短術などのノウハウを提供する企画を考えている。
- ・子育て支援については、幼児後期、学童期の保護者に向けた子育てスキルの内容、夫婦で参加も見受けられ好評だった。引き続き取り入れたい。
- ・女性に対する暴力防止の関係では、ハンドtoハンドメイドの会が、企画、運営、指導の力も備わり、バッジのデザインを担ったことから、さらにその周知・啓発にも関わってもらうため、今年度は、パープルリボンキャンペーンの取組みの一つである情報室の啓発用装飾にも関わってもらうなどの協働関係も構築できた。会への新規の参加者や毎年この取組を楽しみ

にしている市民も少なくないので来年度も実施を検討している。

また、保護者や支援者にむけたデートDV教育、啓発は、参加者が少なくとも、継続して実施することが重要と考える。大学連携のユースリーダー養成講座については、次年度も継続実施することで大学から了承を得ている。今年度のゼミから見えてきた課題を教授と共有し、進めていきたい。

- ・活動交流支援であるチャレンジ企画については、募集は4月1日から30日まで、審査会は5月28日（土）を予定している。次年度も運営委員の中から審査員を選出いただきたい。

委員長 質疑はないか。

委員 令和4年度のウィズせつつフェスタは1日開催か、週間での開催かどちらで実施予定か。

事務局 3月4日に開催を予定しているがコロナ等の状況を考えたい。また、団体や協力もらっている大学とも協議していきたい。

委員 東京オリンピックや北京オリンピックでは、男女共同の種目が増えた。講座等でも男女がペアで参加できるスポーツの講座も検討されてはどうか。また、国際交流なども検討されては。

事務局 検討させていただきたい。

委員長 シングルマザー向けの講座は、目の付け所はよいが対象者が集まるのか。

事務局 摂津市の規模では難しいと考えているので検討したい。

委員 大学参加のDVのユースリーダーの来年度の進め方は。

事務局 中学校での発表を考えているが、学校は時期的には夏休み前を希望されており、時期的には難しいので、新たな結果や成果物が必要と考えることからさらに大学と協議していきたい。

委員 シングルマザーの企画はよいことだと思う、事務局的には参加者数やプライバシーの心配をされているが、シングルマザーを公表されて生活されている方も多くなっており、参加者が少なくても実施する意義があると考え。チャレンジすればよい。

大学とのユースリーダーについても結果や成果物を心配しているが、次学年の生徒が参加するのであるから結果は違ったものになるはずだ。成果物についても今年は冊子であったが、今の学生であればデジタルなども活用した新たな取り組みを提案してくると思う。

委員 同意見だ。シングルマザーの講座は実施してみてもどうか。

ユースリーダーも毎年、ブラッシュアップしていくことができるはずだ。カリキュラムも工夫することで対応することが可能ではないか。

事務局 意見を参考にさせていただきたい。

委員長 ほかに質疑はないか。ないようなので、チャレンジ企画の審査員の立候補はないか。

(立候補者あり)

委員長 次に、事務局から連絡事項等はないか。

事務局 次回の運営委員会は、7月下旬に予定しており、4月中に日程の調整をお願いする。

委員長 以上で、委員会を閉会する。